



岐阜の博物館

編集兼発行

〒501-3941 関市小屋名
(岐阜県百年公園内)

岐阜県博物館内

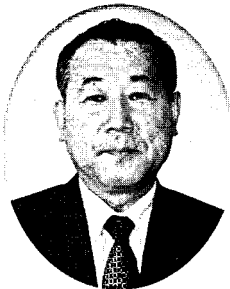
岐阜県博物館協会

TEL 0575-28-3111

<http://www4.zero.ad.jp/gkenhaku/>

博物館との関わり

岐阜県ミュージアムひだ 館長 浅野 裕司



博物館と直接関わるようになったのは、もう12年も前のことになります。当時、県立高校の一美術教師であった私は、突然の辞令で県庁内の県教育

委員会文化課へ勤務を命じられました。そして岐阜県美術館の担当者になったのです。20年以上勤めた学校という教育現場から離れ、まったくの新人として異なった職場環境、業務内容、対人関係、職階等、40歳代半ばにしてまるで転職したかのごとき激変でした。

そのころの文化課では、膨大な文化行政の中に博物館行政も含まれていて、博物館登録や文化庁対応、博物館実態調査などの様々な業務が行われていました。県立博物館施設だけでなく、市町村立や私立博物館も含まれる幅広い内容でした。

そこで初めて、美術館という切り口から博物館という分野に関わり、その奥深さや重要性、学術性、そして何よりもその広範さに気づかされました。博物館の中には美術館や博物館だけでなく、資料館、民俗館、郷土館など、さらには水族館や動物園なども含まれ、実に広範囲な諸施設があるということ、恥ずかしながらその時に初めて知りました。今思い返せば赤面ものです。

けれども、県博物館協会が発足して40年が過ぎた今でも、12年前の私のような認識の人が多いの事実は事実です。実際、私自身もこの分野に関わらなければ、自分の専門に関係する美術館との接点ぐらいしかなかったでしょう。縁とは不思議なもの

です。

図らずも博物館行政に触れることができたのは、私にとって幸運でした。文化課在職中は国の文化施策の動きが肌で感じられ、県においては岐阜県現代陶芸美術館の立ち上げに関わるなど、当時の様々な経験が今の私にとって大きな財産となっています。

長かった県庁勤務を終え、文化行政から距離を置いたと思ったのもつかの間、その後は岐阜県美術館、岐阜県ミュージアムひだと、続けて博物館施設に勤務させていただいています。単独施設となって開館2年目を迎える岐阜県ミュージアムひだでは、博物館運営の難しさを実感しています。

12年前には想像もつかなかった現在の博物館情勢は、博物館施設の増加というプラス面を除いても、余暇動向の多様化等による観覧者数の減少傾向、既存施設の老朽化、公立館における指定管理者制度の導入、行財政改革による予算の削減等、博物館にとっては逆風の時代です。文化は経済と同等かそれ以上のはずなのに、いつの間にか数字が優先される経済至上主義の波に飲み込まれつつあります。今、21世紀の博物館は大きな危機に直面しています。

しかし、危機は転機とも言えます。新しい21世紀型博物館活動とは何かと問われている私たちは、様々なヒントも今までの経験則や実践例から得ることができます。ハンズオン展示、市民参加、ボランティアとの協働、博学連携、体験型活動、アウトリーチ、外部評価などの数多い模索の中から、近い将来、何らかの光が見えてきそうな気がしています。

平成19年度岐阜県博物館協会通常総会報告

期 日：平成19年5月18日(金)

会 場：岐阜県博物館 ハイビジョンホール

参加者：105名（委任状を含む）

会議の概要

平成19年度岐阜県博物館協会通常総会が、平成19年5月18日(金)午後1時から、岐阜県博物館 ハイビジョンホールで開催されました。

総会では、若宮会長の挨拶の後、平成19年度の博物館関係功労者として、

大松美術館 館長 大松 節子 様
美濃宝光院宝物殿十三間堂

館長 鈴木 孝敬 様

高山祭屋台会館 館長 谷田 勉 様

の3名が、表彰を受けられました。

来賓を代表して、岐阜県教育委員会 教育長 松川 禮子様よりご祝辞をいただきました。

議事に先立ち、新に加入された

- ・フザーミュージアム
- ・ハートピア安八
- ・大垣市守屋多々志美術館
- ・岐阜現代美術館
- ・三甲美術館
- ・多治見市文化財保護センターの
6会員が紹介されました。

議案は、慎重に審議され、平成19年度役員を選任、平成18年度事業報告及び収支決算の承認並びに平成19年度の事業計画及び収支予算の決定等については、いずれも原案のとおり、承認・可決されました。

可決された平成19年度の主な事業計画は次のとおりです。

- ・県民文化講演会の開催
- ・公開講座及び研修会の開催
- ・機関紙の発行、ホームページの充実



(祝辞を述べる松川教育長)



(若宮会長の挨拶)

・地域博物館等活性化支援事業の実施

なお、会員から、「協会創立40周年を迎え、多くの県内企業等から高額な支援を受けられる見込みであり、会員も、地域文化の振興、博物館の活性化事業に積極的な参画を求めらる。」旨の発言があった。

平成19年度役員に次の方々を選任（補充）されました。（敬称略）

- 副会長 高屋 一行（岐阜県博物館）
理事 高木 洋（岐阜市歴史博物館）
高橋 宏之（揖斐川町歴史民俗資料館）
大橋 優（海津市歴史民俗資料館）
丹羽 利幸（中津川市鉱物博物館）
加藤 郁乎（光記念館）
浅野 裕司（岐阜県ミュージアムひだ）
監事 白木 節雄
（かかみがはら航空宇宙科学博物館）

* 特別会費・寄付金をいただいた会員名
（敬称略）平成18年10月21日～平成19年6月末

- ・岐阜県現代陶芸美術館
- ・岐阜県サイエンスワールド
- ・岐阜県ミュージアムひだ
- ・岐阜県歴史資料館
- ・若宮修古館
- ・鶴の庵 鶴
- ・さくら資料館
- ・白川郷野外博物館合掌造り民家園
- ・高原郷土館
- ・日本大正村
- ・中山道みたけ館
- ・博石館
- ・羽紡市歴史民俗資料館
- ・飛騨の山樵館（飛騨市美術館）
- ・飛騨みやがわ考古民俗館
- ・美濃歌舞伎博物館・相生座

岐阜県博物館協会 文化講演会

演 題：「考えないヒト」
～ケイタイ依存で退化した日本人～
期 日：平成19年5月18日
会 場：岐阜県博物館 ハイビジョンホール
講 師：京都大学 霊長類研究所 教授 正高信男氏
参加者：100名



比較行動学を専攻され、ヒトを含めた霊長類のコミュニケーション発達など幅広い視点で研究されている正高信男氏による講演会が開催されました。その中で、人間だけが使う言葉の起源や機能と言葉が与えた日本の社会関係の変化について、お話を聞きました。

最新の研究では、人類が言葉を使い始めたのは10万年前であり、ホモ・サピエンスという1種だけであること。言葉を使用することで他の種をおさえ地球を独占したこと。それは、言葉が人との結びつきを強める機能があり、集団としての団結力を高めた結果であると話されました。

また、携帯電話との関連で、欧米では携帯電話は、ただの道具であるが、日本ではただの道具ではないこと。日本人は、人間関係を維持し、社会関係のネットワークを大切にします。この関係からはずれることは不安なことなのです。しかし、現実の社会では、世間話をする時間や場所が減少しています。こんな環境の中で、瞬時に言葉のやりとりができる道具が携帯電話なのです。携帯電話を利用して言葉を交換することで、人と時間を共有する安心感と、社会における人との結びつきを求めていると話されました。

言葉の機能について理解を深め、携帯電話に依存している日本人の社会環境について、改めて考える機会となりました。

（機関紙委員 岐阜県博物館 所輝一）

支援団体・企業紹介コーナー

十六銀行

岐阜市神田町8丁目26番地
TEL 058-265-2111
<http://www.juroku.co.jp>

十六銀行は、明治10年（1877年）10月、第十六国立銀行として創業して以来、地域社会や産業界から厚い信頼をいただき、本年で創立130年を迎えることができました。

金融機関を取巻く環境をみますと、多くの金融機関が成長戦略を標榜するなか、競争が一段と激化しております。当行におきましても、より着実な発展を遂げるため、競争を勝ち抜き、収益力を一層強化するとともに健全性のさらなる向上を図っていくことが重要な課題であり、また、多様化・複雑化するお客様のニーズに的確に対応するために、コンプライアンス態勢をより強固なものとしていかなければならないと考えております。こうした課題に対して、当行としましては金融サービス業としてお客様に真に満足していただけるよう、サービス・事務・コンプライアンスなど、あらゆる分野における品質の向上に努め、収益力・健全性を兼ね備えた「地域における圧倒的な信頼が得られ、親しまれる銀行」を目指して取り組んでおります。

地方銀行の役割として十六銀行本体で各種施策や支援、助成を通じて地域との連携を強化するとともに平成9年8月には地域社会への貢献を目的に「財団法人十六銀行地域振興財団」を設立し、地域の皆様が取り組んでおられる様々な地域活性化活動に対して資金助成を行っています。

十六銀行では、こうした取組を通じて、本年10月に迎えます創立130周年を一つの節目として、将来にわたる継続的な発展を目指して、一層の企業価値の向上に努めて参る所存であります。

皆様にも今後とも引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。



(岐阜県知事より、県「子育て家庭応援」参加第一号の企業としてステッカーを贈呈されました 小島頭取)

岐阜信用金庫

岐阜市神田町6丁目11番地
TEL 058-265-1151
<http://www.gifushin.com>

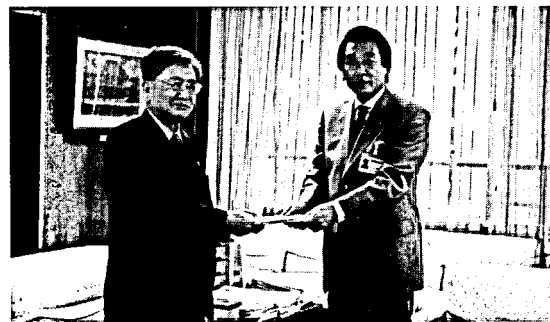
私ども岐阜信用金庫は岐阜・愛知・長野県下を事業区域とする協同組織の金融機関として、地域の経済の発展や豊かな暮らしづくりのお手伝いをしております。また、地域社会の一員としてさまざまな活動への支援を通して、地域文化、スポーツ活動、社会福祉の向上を願っております。

文化活動としましては、毎年恒例となっておりますアルゼンチンタンゴコンサートやクラシックコンサートを通じ、県民の皆さまへふれあいの場を提供させていただいております。

また、(財)岐阜市教育文化振興事業団を通じた「岐阜市芸術文化奨励賞」の受賞者へ奨励金の拠出を行い、地元で活躍する若手芸術家の支援を、平成9年より行ってまいりました。一連の活動が地域文化の振興、発展の一助となれば幸いです。

一方、地域金融機関として、環境保全活動にも積極的に取り組んでまいりました。今や、環境破壊、地球温暖化問題は国家的な取り組みとされますが、私どもは昭和61年に預金量1兆円を記念して、「財団法人ぎふしん記念財団」を設立いたしました。この財団は岐阜県民の皆さまの快適で文化的な生活環境作りのお手伝いをするため、公共施設の緑化推進及び同施設に関する整備事業、生活環境向上についての啓蒙活動を目的としており、設立以来、昨年度までの21年間で県内55カ所へ助成事業をさせていただきました。

これからも「安心感」と「満足感」を持っていただける信用金庫として、さまざまな視点から地域の皆さまのお役に立てるよう努めてまいります。



(岐阜市長に「岐阜駅北口広場の樹木」寄贈目録を贈呈する (財)ぎふしん記念財団 音瀬理事長)

協会創立40周年記念 平成18年度 地域博物館活性化支援事業進捗状況報告

「陶磁資料館ガイド」改訂版の発行（東濃地区）

平成18年度、東濃西部陶磁資料館連携ネットワーク会議が岐阜県現代陶芸美術館、岐阜県陶磁資料館、多治見市文化財保護センター、土岐市美濃陶磁歴史館、瑞浪市陶磁資料館の5館によって開催され、4回目の12月5日に、協会40周年記念事業の活性化助成金の交付が決定された。会議出席者全員のボルテージが一気に上がった。従来のA4判、見開式の掲載内容を少し手直しして、各館の負担金の範囲内で発行部数を決めて印刷を行なう予定であったものが、助成金をプラスした予算での19年度版パンフレット作成会議は参加者をこの上なく勇気付けた。ハンデタイプにして5館を手中におき、選択できる様にする。各館の特色を視覚によってアピールする。遠隔地からの方へアクセス情報は行動への勇気を与える。等々…ひたすら前向きな意見百出、遂にニュー・スタンプラリー・システム（3館目無料制）が棹尾を飾った。印刷業者はプロポーザル方式によって翌、19年1月18日、僅少差の審査結果により決定した。成果物は直ちに、打合わせの宛先へ発送がなされた。この間計6回に及ぶ会議に於いて5館それぞれの方向性、ビジョンを熱く語り、絆、連帯感の様なもの深められたことがなにより



（瑞浪市陶磁資料館館長 青木 本吉）

の収穫ではなかったかと思えます。各館の担当の皆様本当にお疲れ様でした。そして支援事業の関係各位に対しては心より感謝申し上げます。

「会報斐陀」の発行（飛騨地区）

高山歴史研究会は岐阜県を中心とした歴史研究と活用を図り、飛騨地域及び高山市の文化向上に資することを目的に、高山市の学芸員を中心にして平成元年に結成された団体です。過去4回、会員および飛騨地域の学芸員等より原稿を募り会報を発行しましたが、平成7年以来刊行されていませんでした。

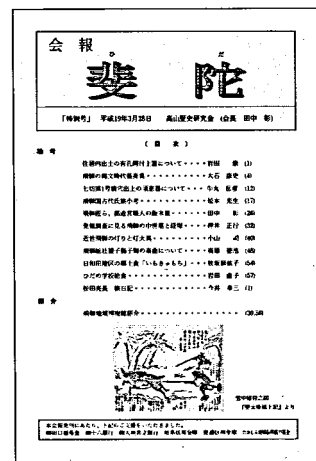
このたび、当会の会報刊行事業が地域博物館活性化支援事業のグループ機関誌発行助成事業として助成いただけることとなり、11年ぶりに会報を刊行することができました。

今回も飛騨各地の学芸員から時代も分野も多岐にわたる論考を計11本掲載しました。掲載した論考の題目は以下の通りです。

「住居内出土の有孔鍔付土器について」「飛騨の縄文時代装身具」「七切第1号横穴出土の須恵器について」「飛騨国古代氏族小考」「飛騨匠ら、都造管職人の飯米量」「発掘調査に見る飛騨の中世墓と経塚」「近世飛騨の灯りと灯火具」「飛騨総社親子獅子舞の楽曲について」「日和田地区の郷土食「いもきやもち」」「ひだの学校給食」「松田亮長 旅日記」

また、飛騨地域博物館紹介欄を設け、飛騨の特色ある博物館をいくつか紹介しました。

今回、飛騨地域の学芸員の活動を広く紹介できたことで、今後様々な交流がこれまで以上に活性化し、飛騨の歴史研究に深さと広さが増すことと期待しております。



（高山市郷土館 大石 崇史）

三甲美術館

〒502-0071 岐阜市長良福土山 3535
TEL : 058-295-3535
FAX : 058-232-5130
<http://www.sanko-museum.or.jp>



鶉飼大橋の北、福土山のほぼ天辺に三甲美術館はありました。寝殿造りを基調とし、日本の伝統的な建築美を思わせるその建物は、プラスチック成型事業を展開する三甲株式会社の会議場および来賓接待用施設「三法荘」として、昭和48年に建てられました。そして15年後の昭和63年、三法荘は美術館として新たなスタートを切りました。



展示室

館内に入り階段を上がると、照明を抑えた一室に和紙彫塑家 内海清美氏による作品が並んでいました。信長にまつわる八つのシーンを再現したという人がたは、見事にライトアップされ、躍動感にあふれています。階段をおり一階へ戻ると、企画展示室、洋室と続きます。洋室は、以前会議室だったとうこともあり、高い天井に豪華なシャンデリアが下がり、ゆったりとした雰囲気です。ここには洋画、日本画、彫刻など幅広いジャンルの美術品が展示され、シャガールやルノワールの大きな油絵

や、彫刻家北村西望による「笑う少女」も見ることができます。部屋の奥には巨大な金色の信長像がしっかりと岐阜城を見据えていました。

廊下を進むと、緑あふれる中庭が目に入ります。ここにはたくさんの沙羅双樹の木が植えられていて、毎年6月には真っ白い花がそこかしこに咲き、来館者の目を楽しませます。廊下を過ぎ、和室に足を踏み入れると、一転して和の世界へと引き込まれます。和室には茶器や日本画、日本刀や鎧が展示されています。さらに、縁側から外を見渡すと日本庭園にお茶室、その後方には金華山と岐阜城。なんともいえない美しさです。



沙羅双樹の花

三甲美術館で展示されている数々の美術品は、芸術作品にとどまらず、日本の伝統文化や岐阜ならではの景色、植物たちの美しさ、そして静寂さも含まれるのではないのでしょうか。そのほとんどは三甲美術館の初代社長 丹羽治助氏と二代目社長 後藤甲子男氏が個人で収集されたものです。心から美しいと思えるもの、三甲美術館できっと出会えます。

【交通】 JR 岐阜駅・名鉄岐阜駅より岐阜バス おぶさ行き「サンライフ岐阜・三甲美術館前」下車 徒歩5分

【開館時間】 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

【休館日】 毎週火曜日（火曜日が祝祭日の場合は開館し、翌日休館）

【入館料（お飲み物付き）】 一般 1200円（1000円）
／高・大学生 800円（600円）
／小・中学生 600円（400円）

※（ ）内は20名以上の団体料金
（機関紙委員 岐阜県世界淡水魚園水族館 堀江真子）